



数字の小道

すうじの
こみち

③ライブ・エンターテイメントの観客動員数

総務部調査企画課



近年、日本のミュージックシーンの中で、沖縄県出身のミュージシャンの活躍が著しく、沖縄が「カリフォルニア」として全国でも注目されてきています（表1参照）。

特に平成14年に、モンゴル800のアルバム「ミヤヤージ」がインディーズとして初のミリオンセラーを記録して以来、沖縄を拠点として活動するアーティストの活躍も目立ち始めています。

音楽業界の関係者からのヒアリングによると、沖縄の人

は日常の生活の中で、民謡等に触れる機会が数多くあり、こういった土壤の中から独特的の感性が養われ、ミュージシャンとしての礎が築かれるほか、音楽センスが高い聴衆が育まれ、これがまたミュージシャンの技術力の向上を招くシナジー効果を生んでいるものと思われます。

表1：最近10年間の沖縄県出身アーティストの主な活躍

安室 奈美恵	1996年発売のアルバム「SWEET 19 BLUES」を含むアルバム3作品、シングル5作品ミリオンセラー達成
MAX	1996年発売のアルバム「MAX」を含むアルバム2作品ミリオンセラー達成
SPEED	1997年発売のアルバム「Starting Over」を含むアルバム4作品、シングル6作品ミリオンセラー達成
Kiroro	1998年発売のシングル「長い間」、アルバム「長い間～kiroroの森」ミリオンセラー達成
DA PUMP	2001年発売のアルバム「Da Best of Da Pump」ミリオンセラー達成
BEGIN	2002年発売のシングル「島人ぬ宝」ヒット、紅白歌合戦初出場
夏川りみ	2001年発売のシングル「涙そうそう」ヒット、2002年紅白歌合戦初出場
モンゴル800	2001年発売のアルバム「MESSAGE」ミリオンセラー達成
HY	2003年発売のアルバム「Street Story」ミリオンセラー達成
ORANGE RANGE	2004年発売のアルバム「musiQ」を含むアルバム2作品、シングル1作品ミリオンセラー達成
D-51	2005年発売のシングル「NO MORE CRY」ヒット、紅白歌合戦初出場

今年も7月1日、2日に沖縄市でピースフルラブ・ロックフェスティバルが開催されました。観客動員数は、モングル800に代表されるインディーズバンドの人気も手伝って、平成13年以降目立った増加を続けています。今年には6000人に到達したようです（図1参照）。

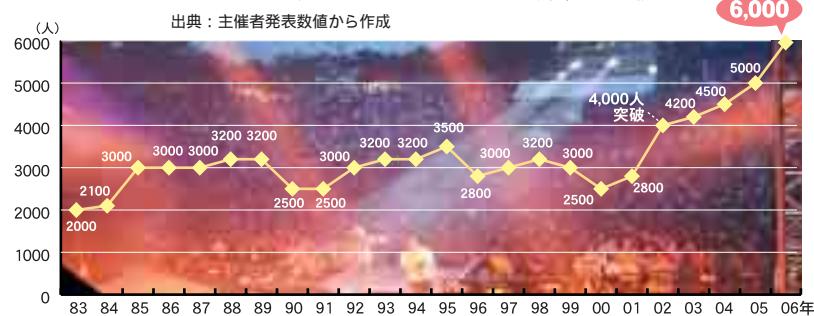
演劇分野においては、昨年の佐敷町民ミュージカルが話題になりました。佐敷町民ミュージカルが話題になつたほか、地元劇団の沖縄芝居や演劇などが話題となっています。特にうるま市（旧勝連町）の中高生が演じる現代版組踊の「肝高（かき）の阿麻和利（あま）」は、平成12年の初上演以降、昨年までに公演回数80余回、観客動員数は、延べ6万人を越え、県外からのリピーターも見られて、平成13年以降目立った増加を続けています。今年には6000人に到達したようです（表2参照）。

表2：「肝高の阿麻和利」公演実績（あまり浪漫の会調べ）※会場の規模により入場者数に差がある。

年度(イベント回数)	観客動員数
H.12 (4回)	8,000人
H.13 (5回)	2,500人
H.14 (17回)	9,400人
H.15 (21回)	15,759人
H.16 (21回)	22,312人
H.17 (13回)	6,550人
計 (81回)	計 (64,521人)

図1：ピースフルラブ・ロックフェスティバル観客動員数の推移

出典：主催者発表数値から作成



写真：「ピースフルラブ・ロックフェスティバル2006から（同フェスティバル実行委員会提供）

・沖縄市のミコージックタウン構想

沖縄市には、戦前から地域住民に親しまれてきたエイサー、

京太郎(きょうたろう)などの伝統芸能があり、それらは戦争という過酷な状況を潜り抜け、戦後、地域の文化や民衆娯楽として復興を遂げました。また、ジャズやロックなどアメリカ文化の影響を大きく受け、多彩なジャンルの音楽芸能が醸成され、多くのミコージャンを輩出しています。

現在、沖縄市内にはライブハウスや民謡酒場が数多くあり、週末は音楽好きで賑わいます。また、ピースフルラブ、ロックフェスティバルや「サ 音楽祭、沖縄音楽市など様々な音楽イベントが開催され、このような環境の中から沖縄民謡とポップスを融合させたバンドなど新しい音楽性をもった若い世代が台頭しています。

このようないことを背景に、沖縄市では、音楽等地域の文化資源を活用した新文化産業の創出により地域の振興を図ることを目的として、平成17年に地域再生計画「国際文化観光都市チャンブル・ルネッサンスジネス振興を軸とした観光のまちづくり人材育成事業」(地元の歴史・文化を

域提案型雇用創造推進事業)を実施しています。

平成19年7月には、沖縄米軍基地所在市町村活性化特別事業を活用して整備中の施設「音市場」のグランドオープンを予定しており、これを核としてミコージャンの育成だけでなく、その他関連分野の人材育成を支援する体制を整え、CDやパッケージ作成をはじめ、関連グッズの制作等による音楽の产业化に向けて取り組むこととしています。

・今後の可能性

音楽市場調査会社エス・アイ・

ピートのまとめによると、インディーズの市場占有率が平成11年2.5%から平成15年8.1%までに伸びています。これは、録音技術の進歩(デジタル化)により、従来の1~10程度の低コストでアーティスト自身がCD等を自主製作できるようになつていることが大きく寄与しているようです。いわば、音楽活動の場が従来のように、音響設備が整っている東京のような大都市において、音楽イベントが沖縄観光の新たなメニューの一つになることは十分に期待されます。

また、今回取材した現代版

「あまわり浪漫の会」の場合で、地元の小中学生が演じる「インディーズ」と呼ぶ。

によると平成12年以降、音楽コンサートや演劇などのライブ・エンターテイメントの動員数や市場規模はいずれも増加基調にあります(図2参照)。音楽市場では、野外ロックフェスティバルが飛躍的に拡大し、また、演劇場ではミコージカルや古典芸能が好調に推移しています。

これらのことから、音楽や演劇などのエンターテイメント産業に着目し、これらの地域資源を活用して地域の活性化に結びつける取組みは、地域振興の一つとして期待できます。

(調査企画課/石川正之・伊波沙耶佳)
再確認することができ、地元に対して誇りをもち始めたそうです。また、先輩達が後輩へ積極的に指導したり、子供たち自身が自主的に工夫を取り入れていくなど、子供たちの自主性や積極性を養うことにもつながっており、地域の子供たちの健全な育成に役立っていることも注目される点です。



「音市場」完成イメージ(夜景)

図2: ライブエンターテイメントの市場規模



インディーズとは

*日本レコード協会会員の大手企業が製作、全国に流通している「メジャー系音楽」に対して、大手に属さない音楽会社や同音楽会社所属のアーティストから生まれた音楽、レコード会社と契約していないアーティストが自主制作する音楽を「インディーズ」と呼ぶ。